

台風16号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成26年9月22日
福井県農業総合指導推進会議

《台風接近前の対応》

1 共通事項

＜用排水等の見回り注意＞

- ・豪雨・強風の中、圃場の見回りなどを行うと、河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の危険があるので、大雨や強風が収まるまで見回りなどを控える。また、大雨が収まった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。

＜ほ場の排水対策＞

- ・大雨によりほ場の冠水や浸水のおそれがあることから、ほ場の周囲や排水溝を掘り直す。特に、これまで冠水や浸水したことのあるほ場については、重点的に排水対策を実施する。

＜園芸施設等＞

- ・強風に備え、破損している天窓などは早急に修繕する。
- ・フィルムの取付金具やハウスバンドをしっかりと固定し、風が強くなってきたら天窓や入口を閉める。
- ・大雨により施設内に停滞水が生じないように、排水溝を点検・整備する。

2 水 稻

- ・台風通過後の排水が速やかに行われるよう準備する。特に倒伏したほ場や倒伏が懸念されるほ場では、排水溝を切るなど排水条件を良くする。

3 大豆、ソバ

- ・台風通過後の排水が速やかに行われるよう、暗渠排水の栓を開け、ほ場の周囲や排水溝を点検・整備する。

4 野 菜

- ・ナス等の果菜類はやや若獲りを行う。また、不良果や黄化した茎葉等は取り除くなどして、株の負担を少なくする。

5 花き

- ・キク等の露地ほ場では、畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかり立て直し、中間にタルキグイを入れて補強する。収穫間近の場合は、早めに収穫する。

6 果樹

- ・ナシ等の棚栽培では、支柱やあおり止めなどの点検・補修を行う。防鳥・防蛾ネットは、固定紐のゆるみをなくし、ネットの外側からビニールバンドで固定するなどして風であおられるのを防ぐ。
- ・収穫時期を迎えているナシの「豊水」については、熟度に達している果実の収穫を進める。
- ・ブドウなどの施設管理は「1 共通事項」の〈園芸施設等〉に従い、対策を行う。

7 畜産

- ・畜舎に強風が吹き込まないように、戸と窓をしっかりしめておくとともに、強風で破損しないように補強しておく。また、飛散物からの損傷を受けないように畜舎周辺の整理に努める。
- ・畜舎等の樋や側溝等の清掃を行い、排水対策を実施する。
- ・放牧地においては、牧柵等の施設の破損、土砂崩れ等の危険がないか点検する。また、危険と判断した場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

《台風通過後の対応》

1 共通事項

- ・事故防止の観点から、台風通過後におけるほ場の見回り等については、気象情報を十分に確認し、大雨や強風が収まってから行う。また、連日の降雨により、ほ場の畦畔や法面が崩壊しやすいので、厳重に注意する。
- ・台風が通過した後は、速やかに施設などの点検を行い、補修や修理が必要な場合には適切な処置を行う。
- ・ほ場や施設が冠水した場合は、排水ポンプや溝切り等により、すみやかに排水を行う。
- ・施設では、サイドビニールや屋根ビニールの巻き上げ等により換気を十分に行うなど適切な温湿度管理に努める。
- ・マルチをしている畝が冠水した場合は、マルチ内の土壤水分が過多となりやすいので、マルチを除去したり、畝肩の部分までめくりあげたりして、畝の土壤水分を適正にする。

2 水稲

- ・1～2日の冠水ではほとんど被害がないと見込まれるので、ほ場に水がたまっている

場合は、速やかにほ場の排水を実施する。

- ・収穫時期を迎えている水稻は、雨が止むのを待って、籾水分を確認した上で刈取りを行う。なお、倒伏したほ場では、コンバインの刈取速度を落として収穫作業を行う。
- ・倒伏により穂発芽した被害籾などは、別仕分けとする。
- ・収穫直前に風雨に揉まれた籾は、胴割れが発生しやすく、また籾殻が剥けたりしやすいので、①コンバインのエンジン回転数をやや落とす、②乾燥設定温度を下げる、③籾摺りは穀温が完全に常温に下がるのを待って行うなど、特に丁寧な収穫・乾燥調製を心がける。
- ・ライスセンターやカントリーエレベーターでは、高水分籾が持ち込まれた場合、荷受け時の仕分けを実施するなどして、事故米の発生を防止し良質米の調製に努める。

3 大豆、ソバ

- ・停滞水がある場合、排水溝の手直しなどを行い速やかに排水する。

4 野菜・花き

- ・施設においては、サイドビニールや屋根ビニールの巻き上げなどにより換気を十分にを行い適切な温湿度管理に努める。
- ・キャベツやネギなど茎葉が傷ついた場合、疫病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、被害株・葉を除去し、防除を徹底する。
- ・根傷みや茎葉汚損により草勢低下が懸念される場合、回復のため液肥を葉面散布する。また、天候が回復してきたら、早めに畦間を中耕して根の回復を図る。
- ・花きが強風により傾いた場合は、長時間そのままにしておくと元に戻らないため、速やかに立て直す。また、出荷中のほ場では、汚れの少ない薬剤で防除するとともに、曲がりや茎葉の損傷程度の大きい切り花が出荷時に混入しないようにする。

5 果樹

- ・大きな枝が裂けた場合は、傷口を合わせボルトなどで固定する。枝が折れた場合はキズのない部分まで切り戻し、切断面に癒合剤を塗布する。
- ・カキなどで収穫前の果実にキズがついた場合は、キズ果を摘果する。
- ・樹種によっては風雨によって病気が発生するので、樹種ごとの農薬使用基準に従い殺菌剤を散布する。
- ・圃場が浸水または冠水した場合は、「1 共通事項」に従い、対策を行う。

6 畜産

- ・施設の破損状況を点検し修復する。なお、高所での作業は十分に注意して行う。
- ・雨に濡れた飼料や乾草は、速やかに給与するか変敗しているようであれば廃棄する。
- ・畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし乾燥に努め、必要に応じ消毒を行う。
- ・生乳処理室などに風雨が吹き込んだ場合は、器具施設の消毒を行う。